

現代の戦争と平和

国際公共政策学

土井翔平

2023-05-23

はじめに

平和は協調的な国際関係の前提となる。そこで、平和や戦争の要因を学ぶ。

- 現代の戦争の特徴はなにか？
- なぜ平和ではなく戦争が選択されるのか？

1 世界における紛争・暴力

武力紛争を定義し、データセットを構築して、数える試み (多湖, 2020, 序章)

- [紛争に関するデータセット](#)

1.1 紛争の頻度と形態

どのような紛争が、どの程度発生しているのか？

[Uppsala Conflict Data Program \(UCDP\) のデータ \(Gleditsch et al., 2002\)](#)

i UCDP における武力紛争の定義

UCDP defines state-based armed conflict as: “a contested incompatibility that concerns government and/or territory where the use of armed force between two parties, of which at least one is the government of a state, results in at least 25 battle-related deaths in a calendar year.”

↪ 内戦の時代？

[Correlates of War \(COW\) のデータ \(Palmer et al., 2022\)](#)

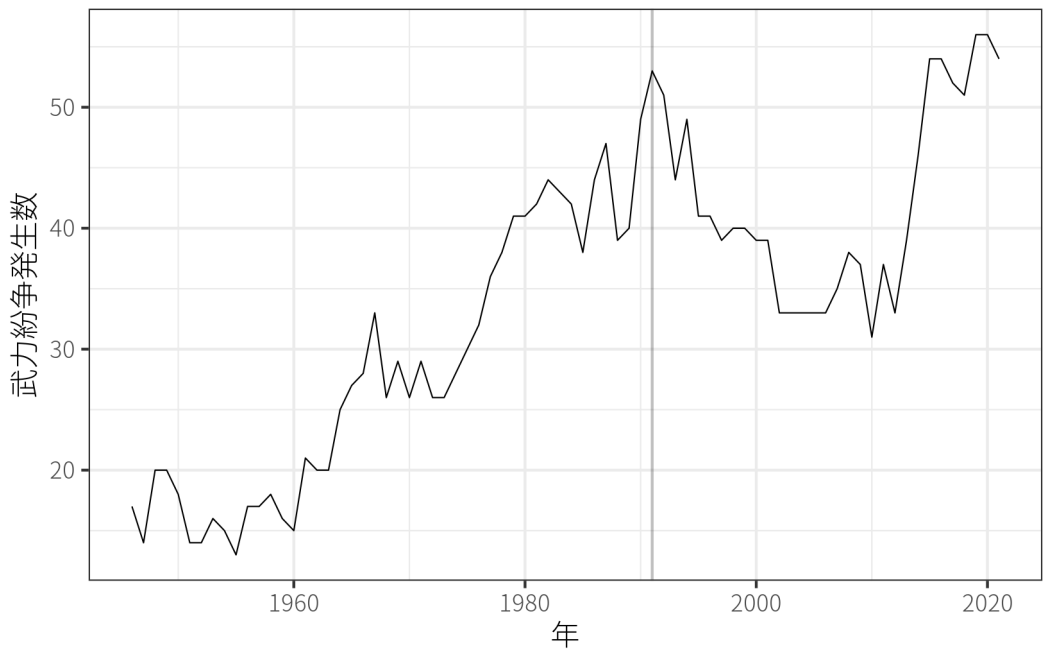


図1: 武力紛争 (UCDP) の発生件数

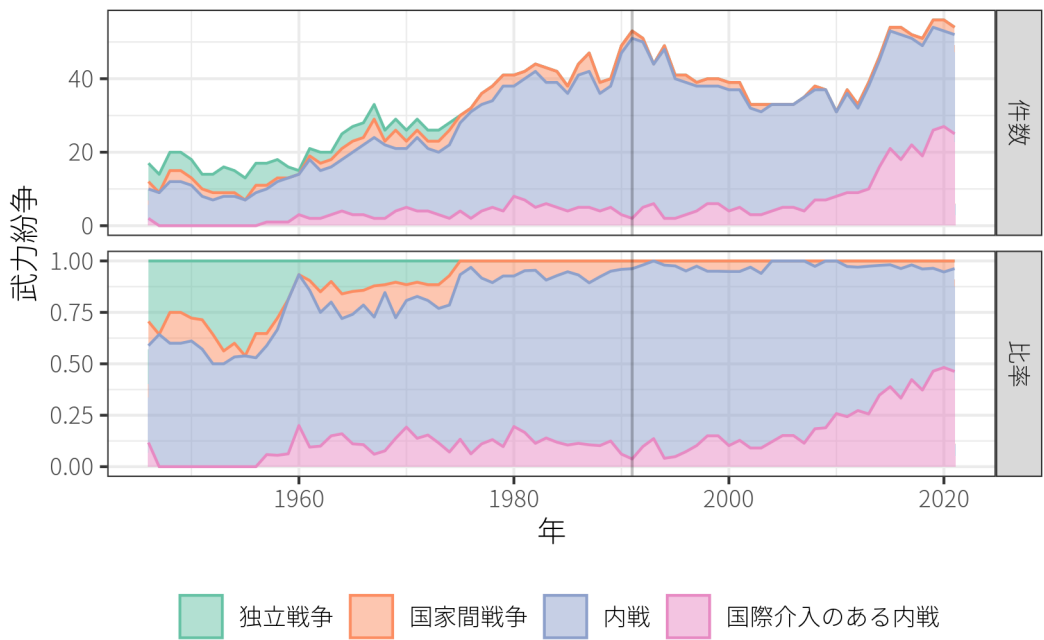


図2: 武力紛争 (UCDP) の種類

- No militarized action
- Threat to use force
- Display use of force
- Use of force, War

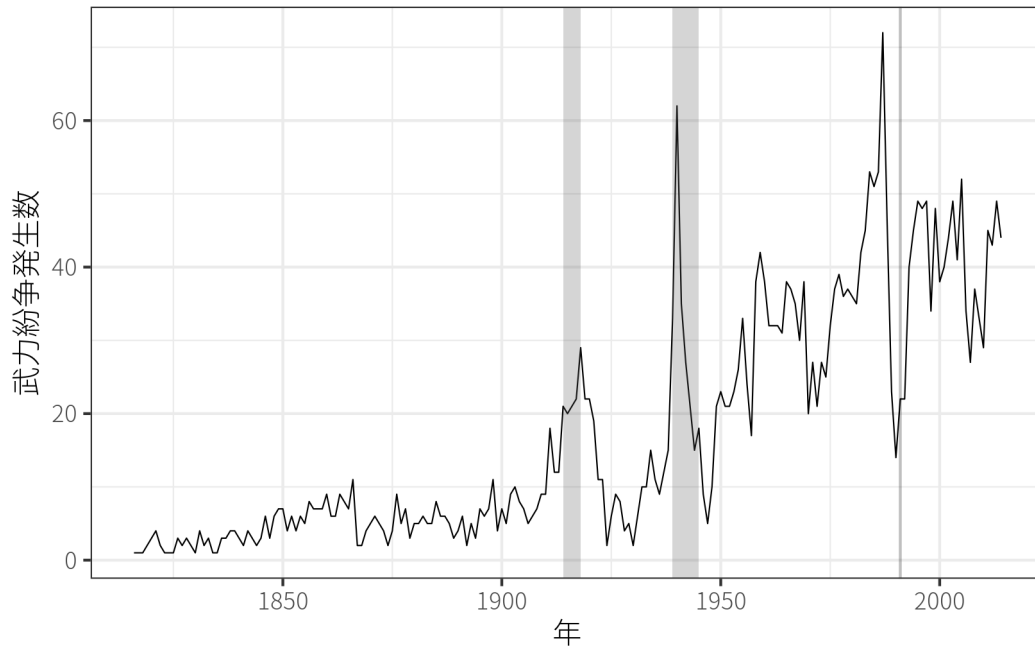


図3: 国家間武力衝突 (MID) の発生件数

1.2 紛争の原因

なにを巡って集団は争うのか？

1.3 暴力の空間的分布

どのような国や地域で紛争は頻発しているのか？

2 戦争と平和について考える意義

国家間紛争が珍しい時代に安全保障について考える意義とは？

- (悲しいことに) 2022 年以降は当たり前のことかもしれない。
- これまで平和であった ≠ 今後も平和である？
- 安全保障で現れる問題は、内戦やテロリズム、国際政治経済においても現れる。

国際関係論の始まり？

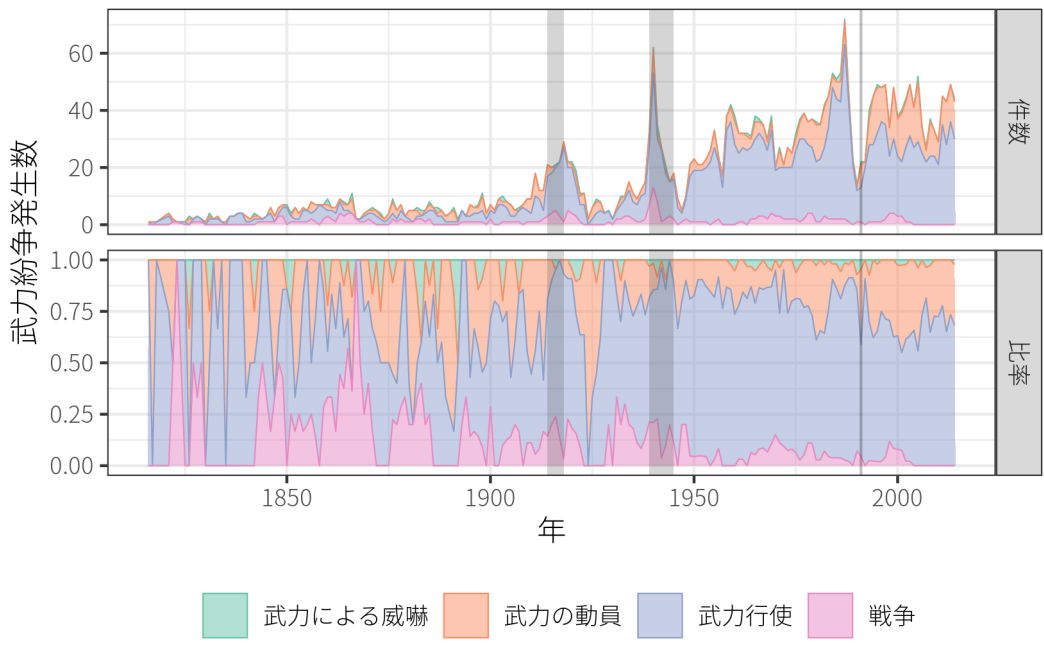


図4: 国家間武力衝突 (MID) の種類

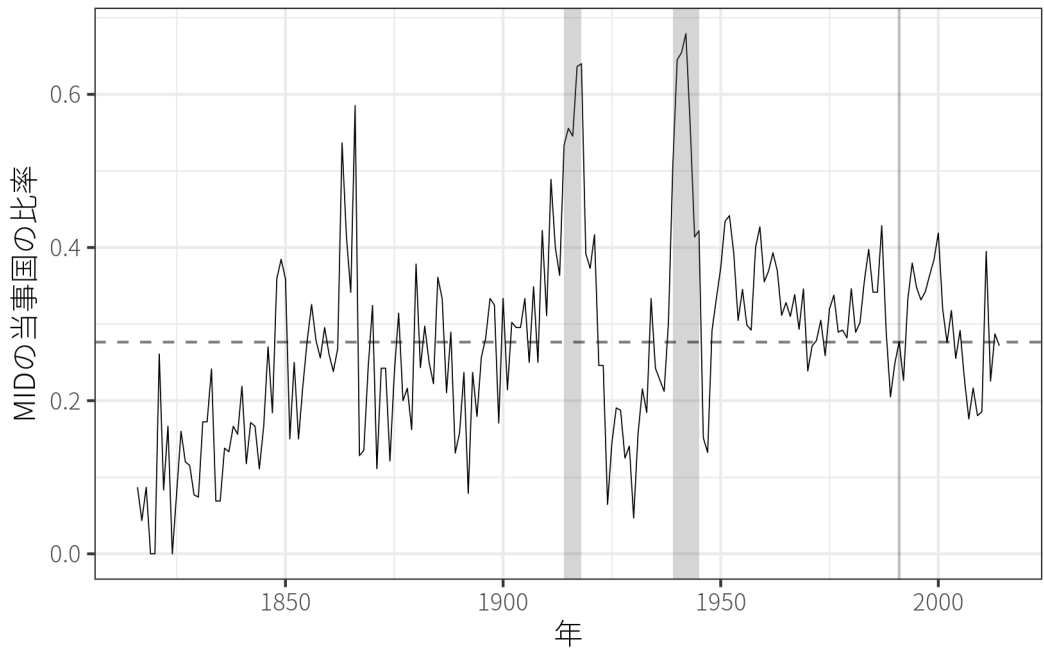


図5: 国家間武力衝突 (MID) の当事国の割合

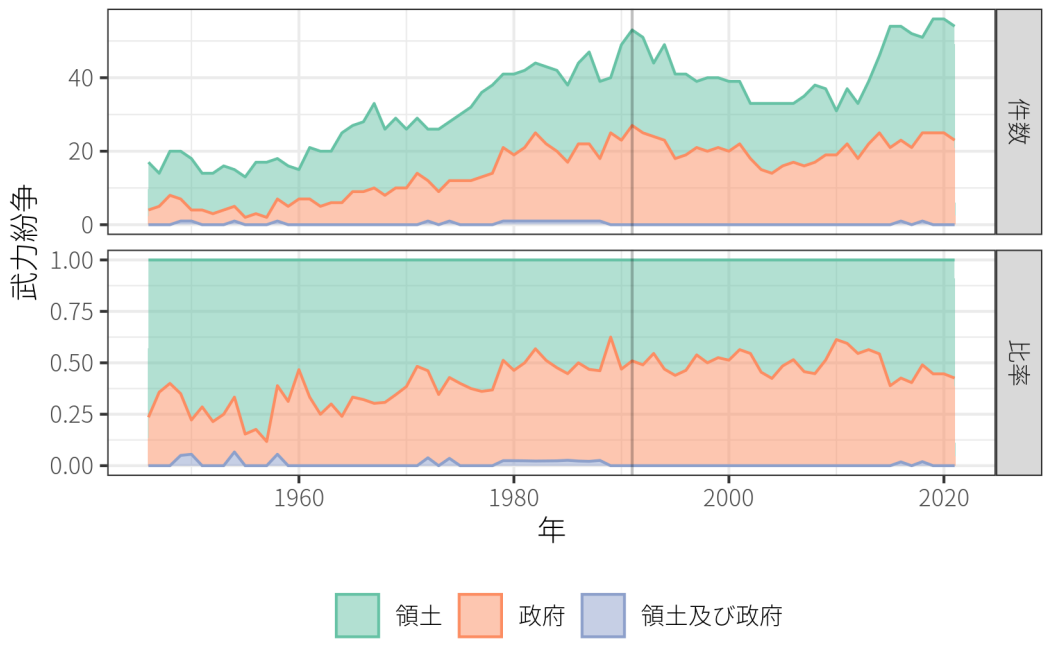


図6: 武力紛争 (UCDP) の対立理由

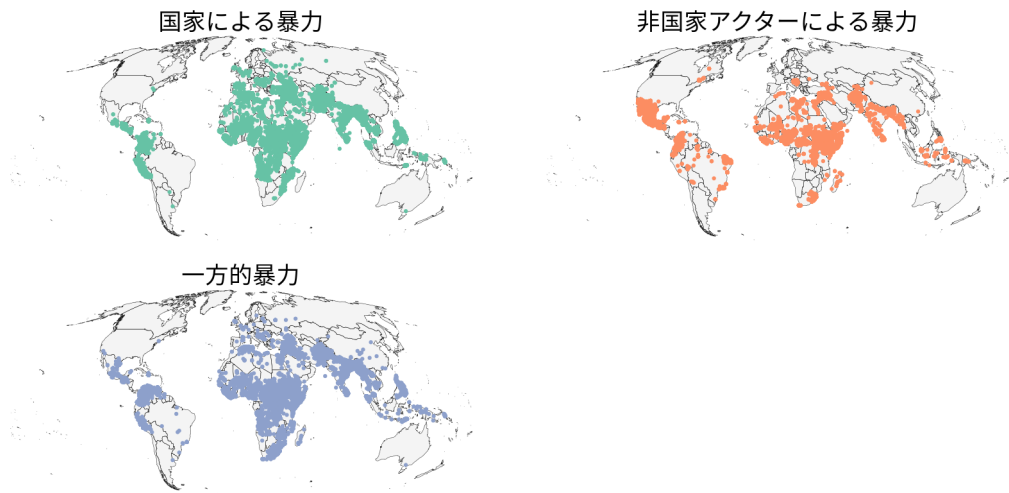


図7: 暴力 (UCDP) の発生場所

- 古代ギリシャのトゥキュディデスが書いた「戦史」(Thucydides, 2013)
- 1939年に出版されたE.H. カーの「危機の二十年」(Carr, 2011)

戦争とは被害がある(社会的に効率的ではない)。

2.1 軍事支出

なぜ軍事支出を増やすのか？

Stockholm International Peace Research Instituteのデータ

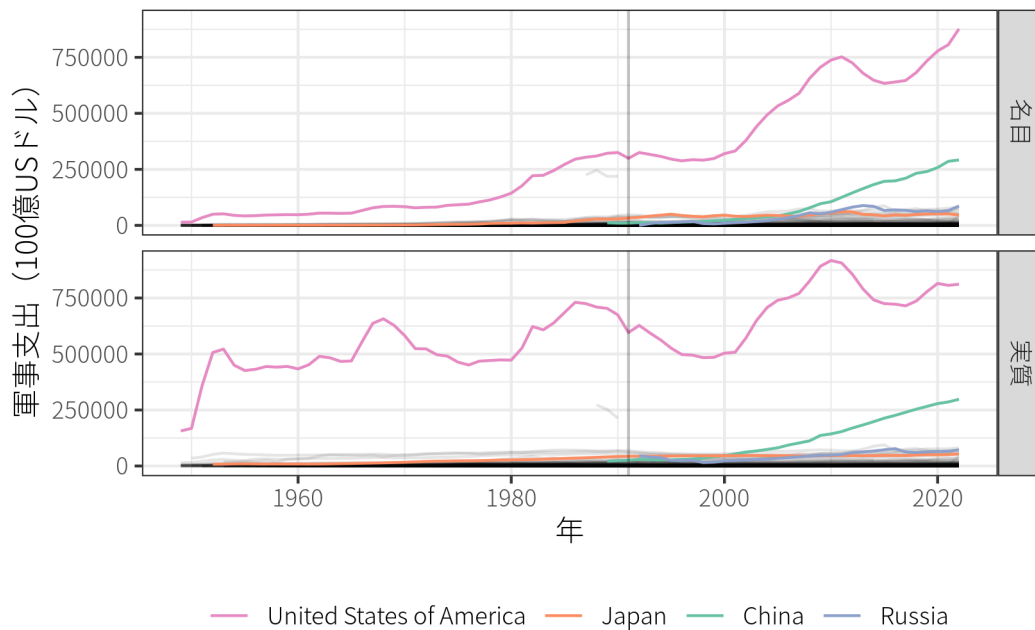


図8: 軍事支出 (SIPRI) の推移

2.2 戦争の被害

戦争ではどの程度の犠牲者が出ているのか？

被害者が少ない=平和的？

2.3 戦争の期間

(人を殺してはいけないという一般的道徳以外に) なぜ戦争は望ましくないのか？

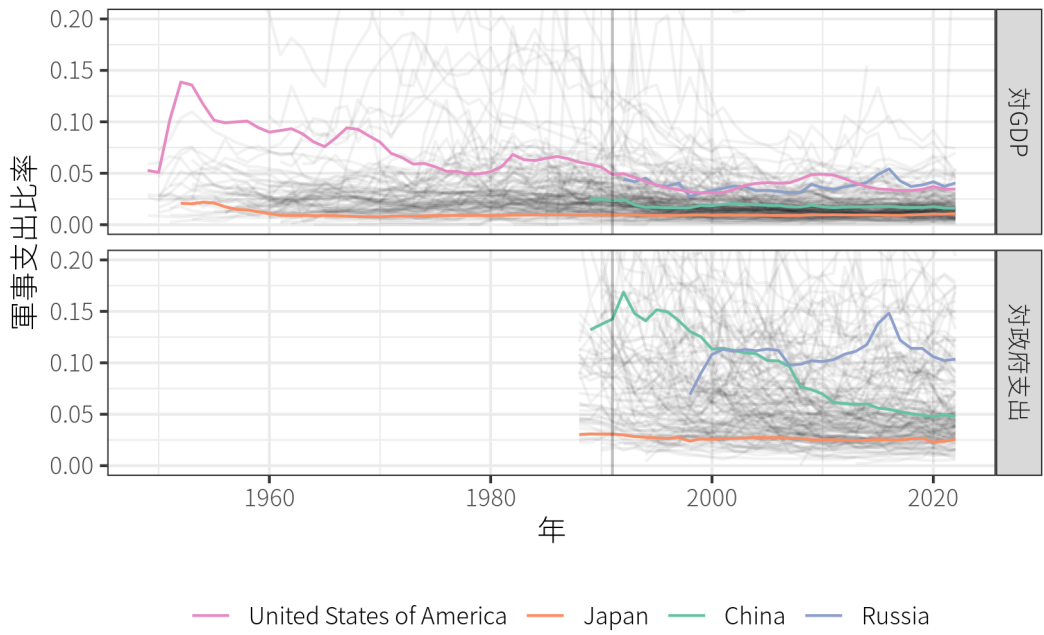


図9: 軍事支出 (SIPRI) の GDP 比の推移

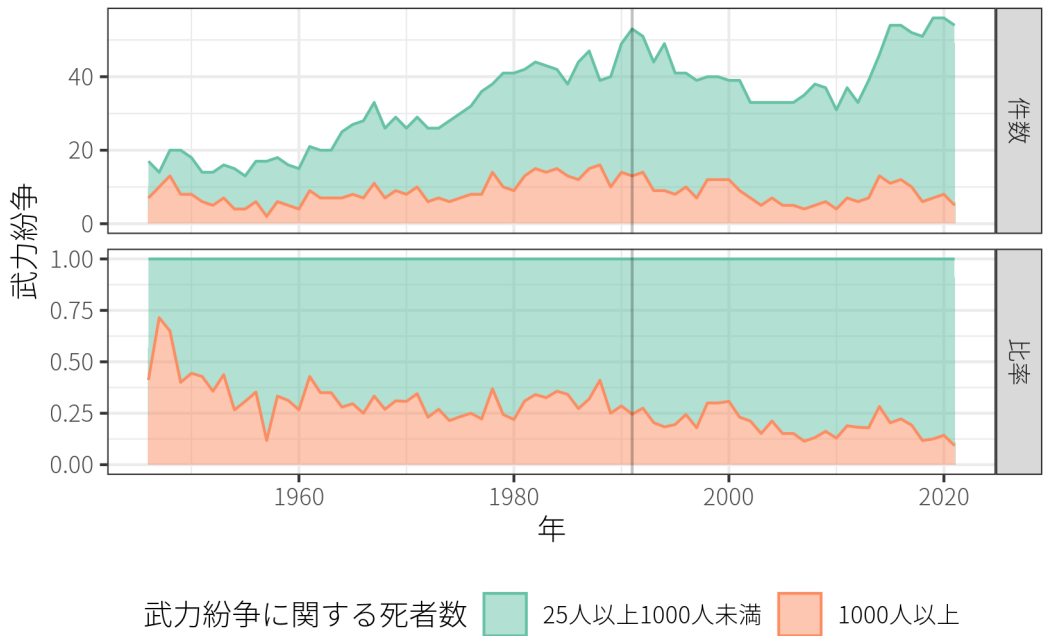


図10: 武力衝突 (UCDP) の規模

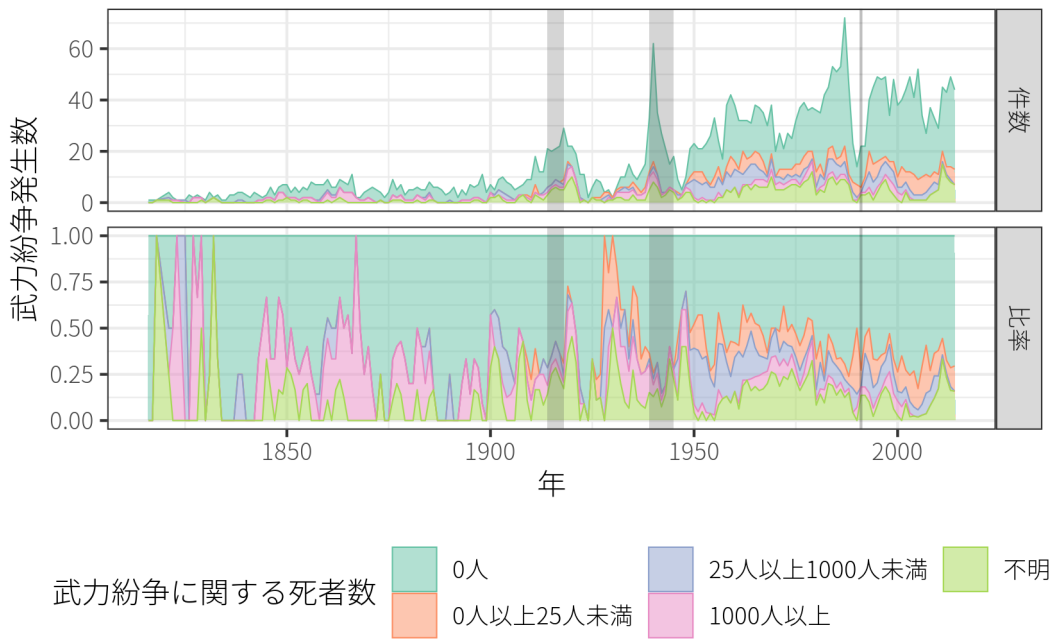


図11: 国家間軍事衝突 (COW) の規模

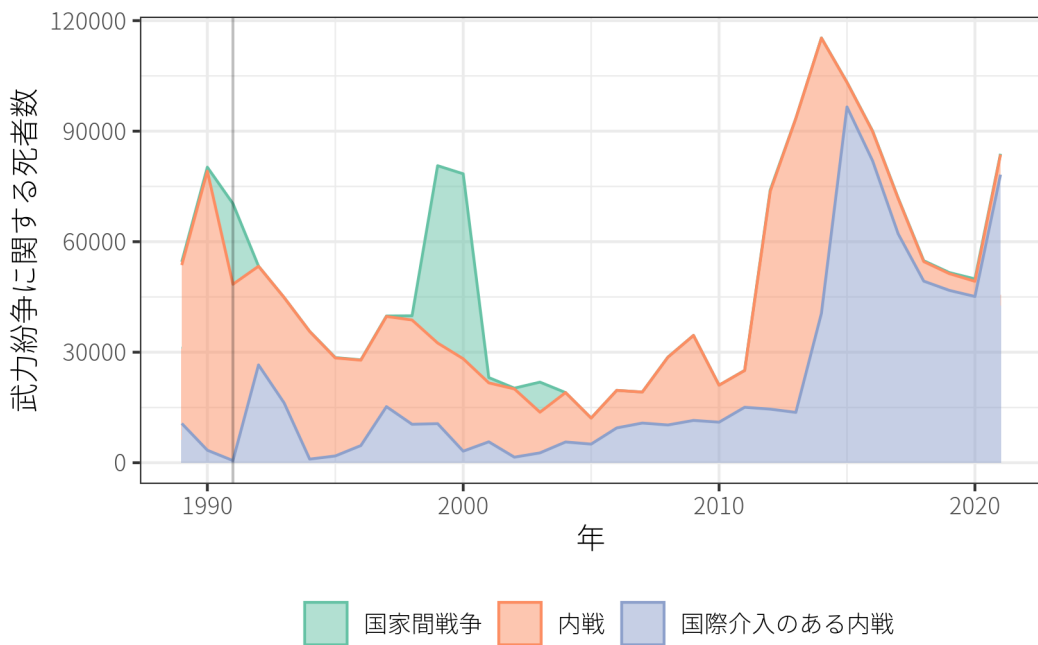


図12: 武力衝突 (UCDP) の形態と被害者数の推移

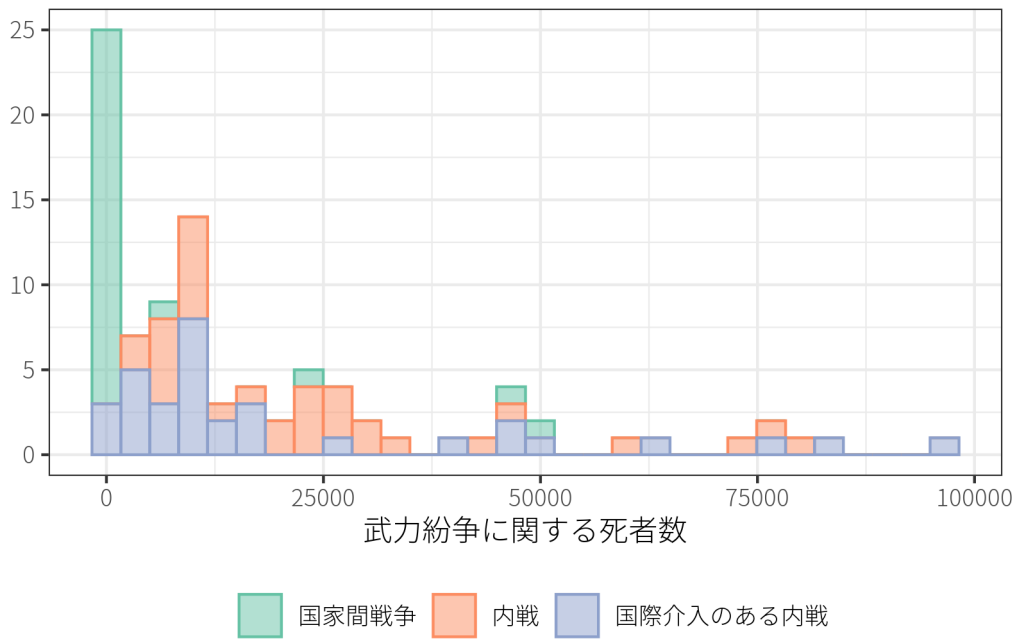


図13: 武力衝突 (UCDP) の形態と被害者数

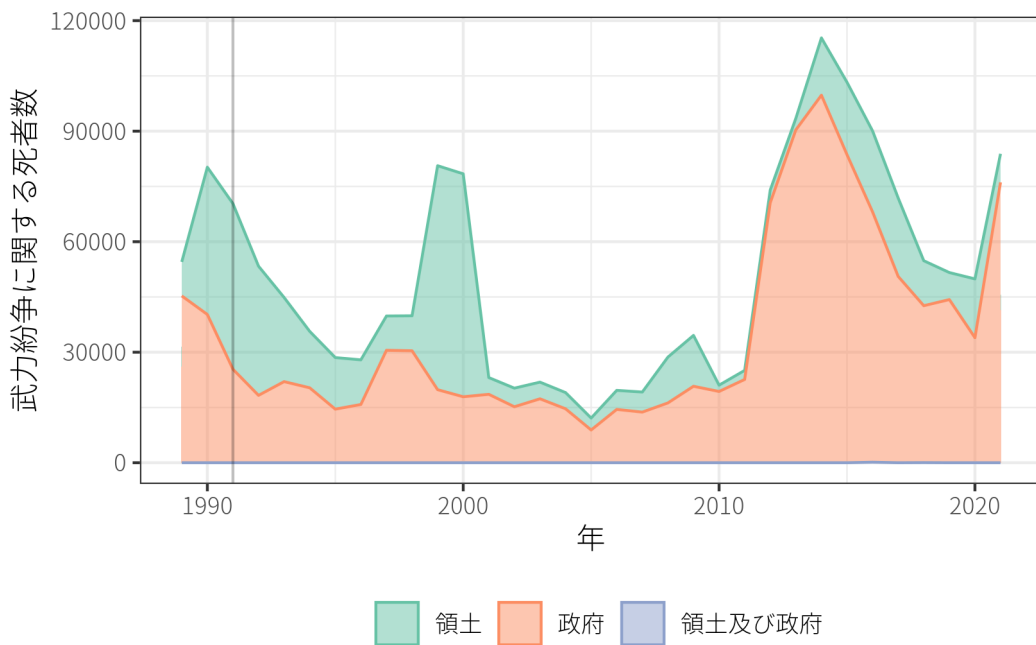


図14: 武力衝突 (UCDP) の対立理由と被害者数の推移

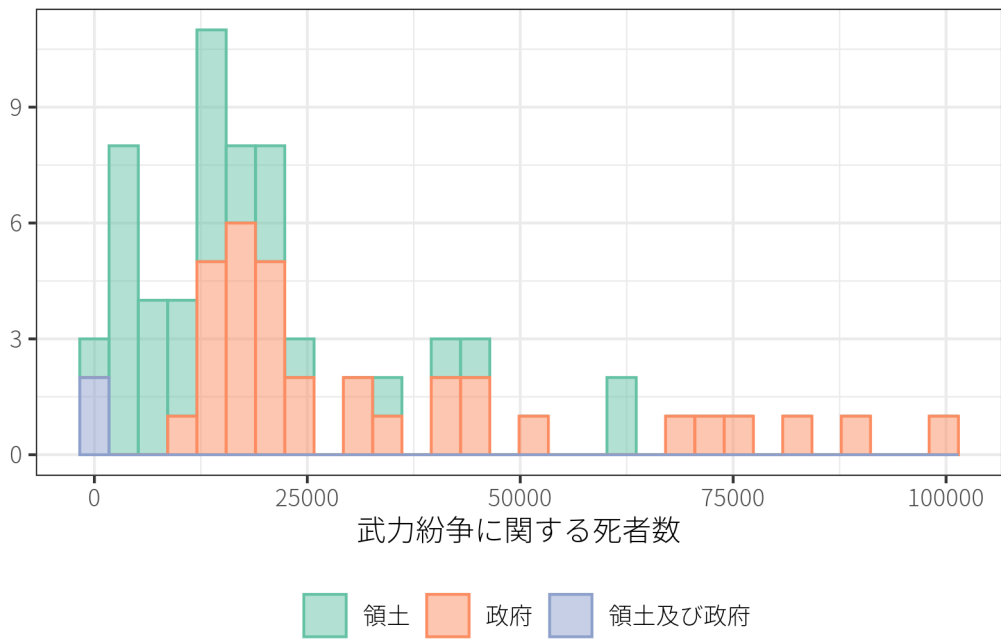


図15: 武力衝突 (UCDP) の形態と被害者数

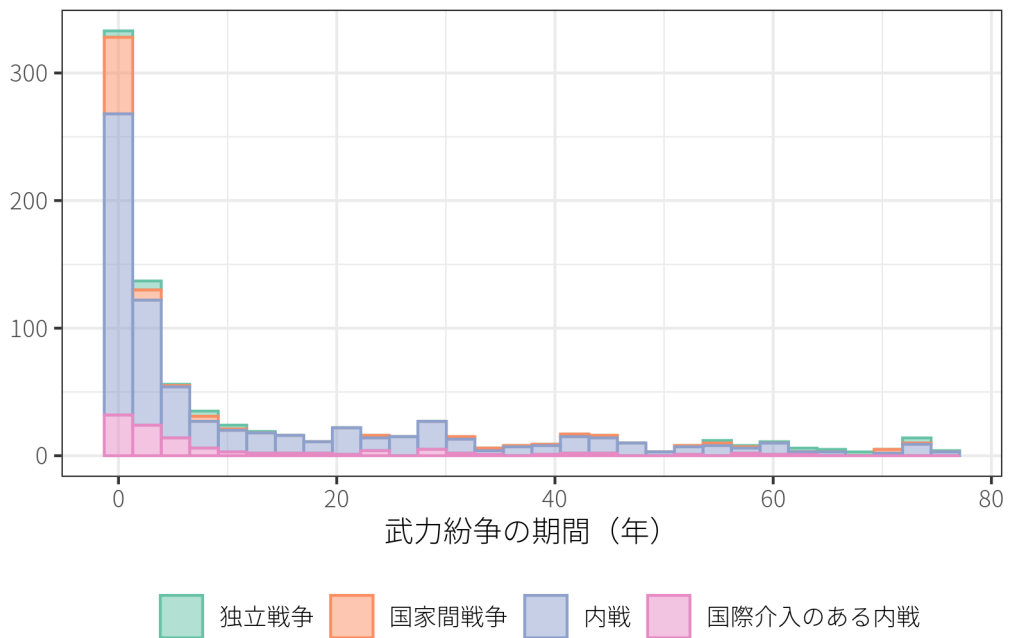


図16: 武力衝突 (UCDP) の形態と期間

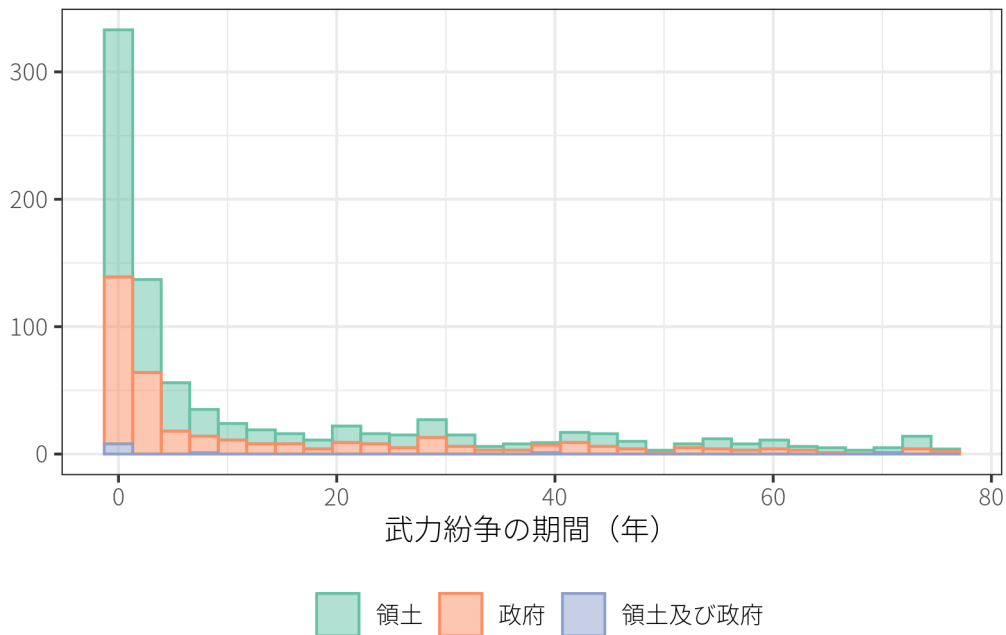


図17: 武力衝突 (UCDP) の対立原因と期間

→ 戦争には損失（軍事費¹、犠牲者）がある＝社会的に非効率的 (inefficient)²である。

3 もう一つの平和

消極的平和 (negative peace): 「戦争が存在しない状態」という平和 (peace)

積極的平和 (positive peace)³: 「構造的暴力が存在しない状態」 (Galtung, 1969, 1991)

- ヨハン・ガルトゥングは平和をより広く捉えた。
- 構造的暴力: 軍事力に限らない貧困や抑圧、差別といった社会的不正義

安全保障 (security) の定義は困難

- 主体、守るべき価値、脅威、手段から捉えられる (防衛大学校安全保障学研究会他, 2018, 第1章)。
- 軍事的安全保障や**伝統的安全保障**: 国家が軍事力により軍事的脅威から国土や市民を守ること
- **非伝統的安全保障**: 非軍事的な脅威に対する安全保障
 - 例えば、経済安全保障、エネルギー安全保障、食糧安全保障、気候安全保障など → 結果として手段も非軍事的手段が主
 - **人間の安全保障 (human security)**: 日本政府などは守るべき価値を国家ではなく人間として捉え直し、「生存・生活・尊厳に対する広範かつ深刻な脅威」から守るべきとすると提唱 (**人間の安全**)

¹ 軍事費の分だけ他の目的 (例えば社会福祉) に予算を支出できないという意味で**機会費用**が発生する。

² (非) 効率性は経済学の概念であるが、ここでは無駄な資源の浪費があるという意味で理解されたい。

³ 日本政府の提唱する**積極的平和主義**とは、英訳すると Proactive Contribution to Peace であり、積極的平和とは異なる。

保障委員会, 2003; Sen・東郷, 2006; 長, 2021)

- ・ 伝統的な安全保障の見方を問うものとして**批判的安全保障論** (南山・前田, 2022)

この授業では軍事的な意味での平和や安全保障について学ぶ。

参考文献

Carr, Edward Hallett (2011) 『危機の二十年: 理想と現実』, 岩波文庫, 岩波書店.

Galtung, Johan (1969) “Violence, peace, and peace research,” *Journal of peace research*, Vol. 6, No. 3, pp. 167–191.

—— (1991) 『構造的暴力と平和』, 中央大学現代政治学双書, 中央大学出版部.

Gleditsch, Nils Petter, Peter Wallensteen, Mikael Eriksson, Margareta Sollenberg, and Håvard Strand (2002) “Armed conflict 1946-2001: A new dataset,” *Journal of peace research*, Vol. 39, No. 5, pp. 615–637.

Palmer, Glenn, Roseanne W McManus, Vito D’Orazio et al. (2022) “The MID5 Dataset, 2011–2014: Procedures, coding rules, and description,” *Conflict Management and Peace Science*, Vol. 39, No. 4, pp. 470–482.

Sen, Amartya Kumar・東郷えりか (2006) 『人間の安全保障』, 集英社新書, 集英社.

Thucydides (2013) 『戦史』, 中公クラシックス, 中央公論新社.

人間の安全保障委員会 (2003) 『安全保障の今日的課題: 人間の安全保障委員会報告書』, 朝日新聞社.

南山淳・前田幸男 (2022) 『批判的安全保障論: アプローチとイシューを理解する』, 法律文化社.

多湖淳 (2020) 『戦争とは何か: 国際政治学の挑戦』, 中公新書, 中央公論新社.

長有紀枝 (2021) 『入門人間の安全保障: 恐怖と欠乏からの自由を求めて』, 中公新書, 中央公論新社, 第増補版版.

防衛大学校安全保障学研究会・武田康裕・神谷万丈 (2018) 『安全保障学入門』, 亜紀書房, 第新訂第5版版.